

本校教育目標・経営方針

1 地域及び生徒の実態

宝永4年(1707年)の富士山(宝永山)の大噴火による壊滅的な災害を克服し復興した不屈の歴史と共に、昔から県東部の代表的な穀倉地帯であったことから、郷土意識や近隣同胞意識が脈々と息づいている学区である。

近年はレジャー産業や工業団地等の大規模な開発により、第2次産業や第3次産業を中心とした企業や産業の進出が定着し、それに伴い保護者の大多数は会社員や公務員であり、兼業農家へと変貌した。また、他地区からの移転者が増加し、ものの考え方や生活様式が多様化するといった都市化傾向の様相を呈してきている。

こうした地域社会の変化にもかかわらず、生徒は相対的に純朴さと勤勉さを失うことなく、明るく伸び伸びとした学校生活を送っている。係活動や奉仕活動・諸活動等には一生懸命取り組む姿が見られるものの、学習に対する主体性や積極性の面では課題を残している。そこで指導の方向としては生徒の興味関心に沿いながら、学習への動機付けに力点を置き、自ら学ぶ力を身に付けることを基本に、生徒一人一人の個性に応じた確かな学力を定着させていきたい。その上で、創意工夫する力や積極的に自己表現する力の醸成と、共に学び合う学習集団の育成を目指したい。

生活面では、落ち着きのある態度で安定した学校生活を送る生徒が大部分であるが、一方積極性や覇気という面の指導の必要性も感じている。

2 学校経営の基盤

- (1) 文部科学省の施策や各種答申を踏まえ、県教育委員会の「人づくり2010プラン」「静岡県版カリキュラム」、及び町教育委員会の施策を基本に、特色ある経営を推進する。
- (2) 外部評価を含めた学校評価システムを構築し、その結果を経営に生かす。
- (3) 地域社会の実態や要望を把握し、地域の教育資源を積極的に活用した教育活動を進め、開かれた学校づくりを目指す。その一環として学校評議員会を構成し、必要に応じて広く意見を求める。
- (4) 生涯学習社会の視点に立ち、一人一人の興味関心や特性に応じた個性を引き出し、良さを伸ばす教育活動を推進する。
- (5) 校舎施設・設備・備品等、特色ある教育環境を生かし教育活動を推進する。

3 学校経営の方針

- (1) **豊かな人間性とたくましく生き抜く力の育成を目指す。**

しっかりとした挨拶、他への思いやり、落ち着いた生活態度などの良き伝統を、「北中ブランド」として引き継いでいけるよう、教育活動全般を通じて指導していく。

苦しいことや困難なことにも、自ら我慢強く立ち向かっていけるよう、支援や励ましを心掛ける。

自分の意見や考えを、遠慮することなく主張できるよう、自己表現する場の設定を工夫する。

- (2) **基礎学力・基礎体力の定着を図ると共に、個に応じた高い学力・基礎体力の育成を目指す。**
TT・GT・少人数指導などを多様な学習形態を取り入れ、各教科の教材配列や基礎・基本を見直すなどして、学力の確実な定着を図る。
選択教科で課題学習や補充学習・発展的学習など生徒個々の興味・関心に応じた指導を充実させる。
自主的な体力づくりを奨励し保健体育や部活動を通じて、基礎体力の向上を図る。
- (3) **内に外に開かれた学校づくりを目指す。**
「北中人づくりプラン」を策定し目標を保護者にも明らかにすると共に、三者（保護者・生徒・教職員）による学校評価を実施するなどし、説明責任を果たしていく。
学校通信や学年通信を引き続き充実させると共に、ホームページの活用を図るなどして学校の情報発信を進めていく。
「PTA 学校」や「みずなタイム：総合的な学習の時間」等の場を活用し、地域や保護者の力を積極的に教育活動に取り込む。
- (4) **信頼される学校づくりを目指す。**
教職員の職務目標の立案とそれに基づいた管理職との面談・教育実践を通じ、教育専門職としての自覚を高めていく。
教職員一人一人の研修希望を可能な範囲で保障し力量アップを図ると共に、小山町教育研究指定（平成18・19年度）を、教員としての資質向上を図る絶好の機会として捉える。
特別支援教育や教育相談を充実させ、生徒や保護者との心のつながりを大切に信頼関係を構築していく。

4 学校教育目標

校 訓 『 自学 友愛 練磨 』

教育目標 『意欲を持って粘り強く取り組み、
心豊かにたくましく生きる生徒』

期待する生徒像

- 『自己の課題に進んで取り組み、実践できる生徒』
- 『互いの良さを認め合い励まし合う生徒』
- 『粘り強く取組み、最後までやり通そうと努力する生徒』

重点目標 『自己の課題に進んで取り組み、実践できる生徒の育成』